

【平成28年5月の経済報告】

平成28年5月13日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。新緑のみぎり、平成28年5月の経済報告をお届けします。

1. 全般動向

JST研究開発戦略センターは、2016.4.12「研究開発の俯瞰報告書 主要国の研究開発戦略（2016年）」を公表しました。これは、研究開発戦略立案の基礎として、科学技術分野における研究開発の現状の全体像を把握し、分野ごとに今後のあるべき方向性を展望するものです。主要な研究開発領域ごとの主要国（日本、米国、欧州、中国、韓国）間の国際比較も行っています。

詳細は、以下のHPをご参照下さい。

<http://www.jst.go.jp/crds/pdf/2015/FR/CRDS-FY2015-FR-07.pdf>

2. 各経済指標

◎ 月例報告（内閣府）（平成28年4月21日公表） ※最新のデータで作成

【日本経済の基調判断】

〈現状〉

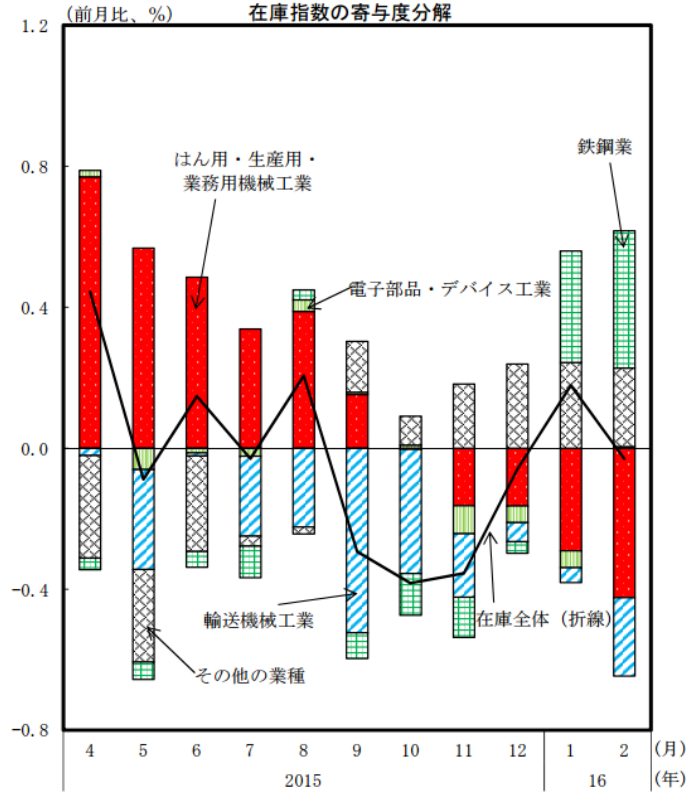
- ・景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。
- ・消費者物価は、緩やかに上昇している。景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

〈先行き〉

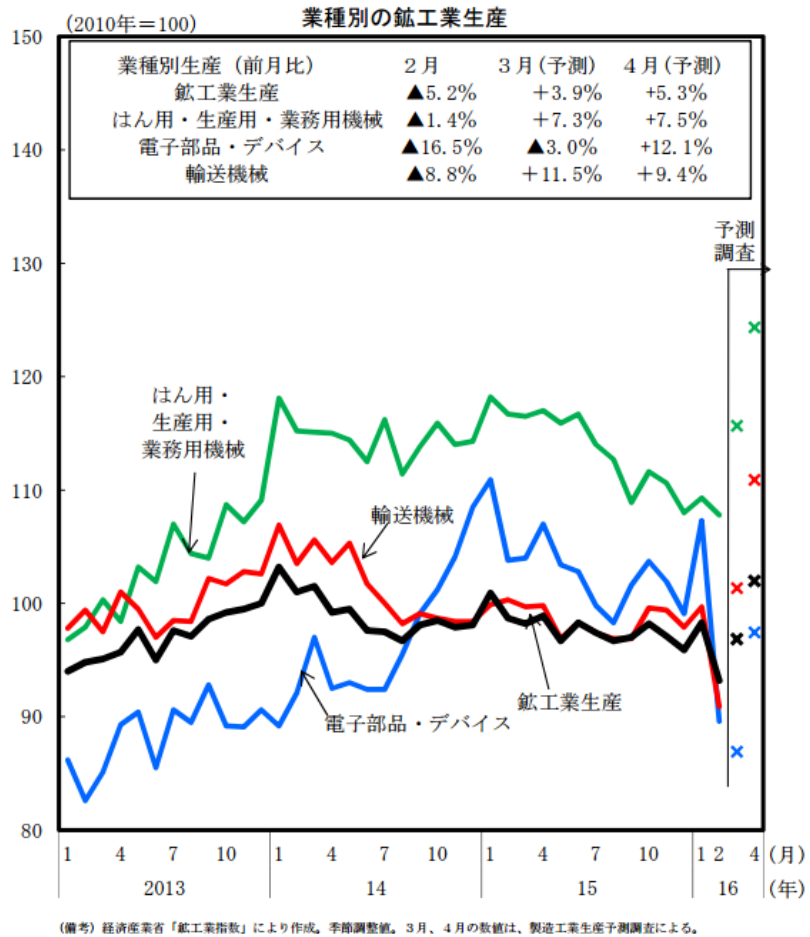
先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。また、平成28年（2016年）熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

【以下は概要】

○在庫は、はん用・生産用・業務用機械を中心に減少傾向



○生産は横ばい



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2016/04kaigi.pdf>

◎ 設備投資

設備投資調査に関しては、4月号掲載の平成28年2月実績：機械受注統計調査報告が最新となりますので本号では省略させていただきます。

◎ 鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成28年3月分（速報）】（平成28年4月28日発表）

鉱工業指数（生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数）

～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況> — 生産は一進一退 —

今月は、生産、出荷、在庫、在庫率ともに上昇であった。

製造工業生産予測調査によると、4月は上昇、5月は低下を予測している。

総じてみれば、生産は一進一退で推移している。

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (前月値)	96.6 (93.2)	3.6 (▲5.2)	107.9 (94.4)	0.1 (▲1.2)
出荷 (前月値)	94.1 (92.8)	1.4 (▲4.1)	109.2 (93.8)	▲1.2 (▲1.6)
在庫 (前月値)	115.3 (112.2)	2.8 (▲0.2)	106.7 (114.0)	1.7 (▲0.9)
在庫率 (前月値)	118.5 (114.5)	3.5 (▲1.5)	99.6 (117.2)	4.0 (0.9)

1. 生産・出荷・在庫動向

<生産>

生産は、前月比3.6%の上昇。

上昇業種

輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業等

低下業種

情報通信機械工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業

<出荷>

出荷は、前月比 1.4%の上昇。

上昇業種

輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業等

低下業種

電子部品・デバイス工業、繊維工業、鉄鋼業等

<在庫>

在庫は、前月比 2.8%の上昇。

上昇業種

輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業等

低下業種

石油・石炭製品工業、鉄鋼業、プラスチック製品工業等

2. 製造工業生産予測調査

製造工業生産予測調査によると、4月は前月比 2.6%の上昇、5月は▲2.3%の低下。

4月の上昇業種

輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、化学工業等

5月の低下業種

輸送機械工業、電気機械工業、化学工業等

製造工業生産予測調査（季節調整済前月比(%)）

平成22年(2010年)=100

	平成28年3月	平成28年4月 見込み	平成28年5月 見込み
平成28年4月調査 (今回)		2.6	▲2.3
平成28年3月調査 (前回)	4.2	5.7	

平成22年=100.0
Index,2010=100.0

項目	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index	
	(前月の確報値)	Percent Change		Percent Change 前年同月比(%) From Previous Year
		前月比(%) From Previous Month	(前月における前月比(%) From Previous Month	
生産 Production	96.6 (93.2)	3.6 (▲ 5.2)	107.9	0.1
出荷 Shipments	94.1 (92.8)	1.4 (▲ 4.1)	109.2	▲ 1.2
在庫 Inventories	115.3 (112.2)	2.8 (▲ 0.2)	106.7	1.7
在庫率 Inventory Ratio	118.5 (114.5)	3.5 (▲ 1.5)	99.6	4.0

注：▲は低下を示す
Note: ▲ indicates a negative figure.

(1) 生産は、前月比 3.6%の上昇であった。

業種別にみると、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業等が上昇し、情報通信機械工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業が低下した。

(2) 出荷は、前月比 1.4%の上昇であった。

業種別にみると、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、金属製品工業等が上昇し、電子部品・デバイス工業、繊維工業、鉄鋼業等が低下した。

(3) 在庫は、前月比 2.8%の上昇であった。

業種別にみると、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業等が上昇し、石油・石炭製品工業、鉄鋼業、プラスチック製品工業等が低下した。

(4) 製造工業生産予測調査によると、4月は前月比 2.6%の上昇、5月は▲2.3%の低下であった。

4月の上昇は、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、化学工業等による。5月の低下は、輸送機械工業、電気機械工業、化学工業等による。

平成28年3月の鉱工業生産の基調判断

「生産は、一進一退」

基調判断の推移

- ・平成25年9月～26年3月
「生産は持ち直しの動き」
- ・平成26年4月～5月
「生産は横ばい傾向」
- ・平成26年6月～8月
「生産は弱含み」
- ・平成26年9月～11月
「生産は一進一退」
- ・平成26年12月～平成27年4月
「生産は緩やかな持ち直しの動き」
- ・平成27年5月～7月
「生産は一進一退」
- ・平成27年8月
「生産は弱含み」
- ・平成27年9月～
「生産は一進一退」

鉱工業生産指数

四半期ベース (平成22年=100、季節調整済)			月次(3か月移動平均値)ベース (平成22年=100、季節調整済)				
	指数	前期比 (%)		指数	前期比 (%)		
平成27年	I期	99.3	1.1	平成26年	4月	100.1	▲0.5
	II期	98.0	▲1.3		5月	98.8	▲1.3
	III期	97.0	▲1.0		6月	98.2	▲0.6
	IV期	97.1	0.1		7月	97.3	▲0.9
平成28年	I期	96.0	▲1.1		8月	97.4	0.1
	II期	(98.0)	(2.1)		9月	97.8	0.4
					10月	98.2	0.4
					11月	98.2	0.0
					12月	99.0	0.8
				平成27年	1月	99.2	0.2
					2月	99.3	0.1
					3月	98.6	▲0.7
					4月	97.9	▲0.7
					5月	98.0	0.1
					6月	97.5	▲0.5
					7月	97.5	0.0
					8月	97.0	▲0.5
					9月	97.3	0.3
					10月	97.4	0.1
					11月	97.1	▲0.3
					12月	97.1	0.0
				平成28年	1月	95.8	▲1.3
					2月	96.0	0.2
					3月	(96.3)	(0.3)
					4月	(97.5)	(1.2)

(注)
上記の平成28年II期の()及び右表の平成28年3月、4月の()内の数字は、製造工業生産予測指数の伸び率をそのまま鉱工業生産指数の最新月に適用して、機械的に計算したものである。製造工業生産予測指数は、鉱工業指数の対象のうち一部の企業に対して、今後の生産計画を調査したもの。

※ なお、詳細は以下のHPをご参照下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201603sj.pdf

2. その他の動向

「2016 SIP 防災・インフラ維持管理合同シンポジウム」の開催について

平成 28 年 3 月 4 日（金）、東京・千代田区のフクラシア東京ステーションにて内閣府と科学技術振興機構の主催による「2016 SIP 防災・インフラ維持管理合同シンポジウム」が開催されました。

当シンポジウムでは、SIP で共通の技術を活用している「レジリエントな防災・減災機能の強化」と「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」の両課題による講演やパネルディスカッションが行われました。また、シンポジウムに先立ち、隣接会場において、「レジリエントな防災・減災機能の強化」課題によるポスターセッションも実施され、多くの参加者で賑わいました。

開会に際し、久間和生総合科学技術・イノベーション会議常勤議員と中島正愛「レジリエントな防災・減災機能の強化」プログラムディレクター（以下、PD）の挨拶があり、その後「レジリエントな防災・減災機能の強化」の 4 名の研究者による講演が行われました。

続いて合同セッション「防災・インフラ維持管理への共通技術の利活用について」が行われ、合成開口レーダー（SAR）衛星の活用、また、ドローンやロボットの活用等について、各課題関係者による話題提供とともに、中島 PD、「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」課題の藤野陽三 PD を含む 8 名のパネリストによるパネルディスカッションが実施され、活発な討論が行われました。当日は、各課題の関係者や一般参加者などおよそ 150 名の参加者が一堂に会し、SIP 両課題の取り組みや今後の展開に対する注目の高さがうかがわれました。

最後に、藤野 PD より閉会挨拶があり、本合同シンポジウムをきっかけに、継続して両課題の交流を行うことが提案され、今後のさらなる連携が期待されるシンポジウムとなりました。



▲シンポジウム開催中の様子



▲久間和生 総合科学技術イノベーション会議常勤議員によるご挨拶の様子



▲パネルディスカッションの様子



▲ポスターセッションの様子